

ALIC/MLA 牛肉需給情報交換会議の開催について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）と牛肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は、昭和62年から相互国において、原則として毎年度開催しており、今回で通算21回目になります。

記

1 日 時：平成24年12月4日(火) 12時30分から17時まで

2 場 所：豪州・シドニー

3 参加者

ALIC

佐藤理事長、清家総括理事、星野調査情報部調査役、前田（調査情報部）

MLA

ロバート・アンダーソン 会長

ピーター・バーナード 貿易・経済サービス担当部長

ピーター・ボーン 家畜生産革新担当部長

アンドリュー・マッカラム 貿易・経済サービス部政策担当課長

ティモシー・マクレイ 貿易・経済サービス部市場情報分析担当課長

近藤 美穂子 貿易・経済サービス部対日貿易サービス担当課長

4 会議内容

佐藤理事長とアンダーソン会長の挨拶の他、ALIC 及び MLA からそれぞれの国内の牛肉需給等について説明し、意見交換を行った。

<MLA からの牛肉需給についての説明概要>

- ・ 豪州の6～11月の間の降雨量を見ると、平年を下回る地域が多く、乾燥気味の気候となっている。2010年以降、降雨に恵まれて牛群の拡大が進んでいたが、最近ではこれを躊躇する生産者もみられる。今後の天候が、飼養動向を左右すると見込まれる。
- ・ 日本向けの牛肉輸出量は、2012年1～11月の累計で前年同期比8.5%減の28万5400トンと落ち込んでいる。これは、豪ドル高の影響で豪州産牛肉の価格競争力が、米国産牛肉に対して低下したことによるものである。
- ・ 豪州のフィードロット産業は、日本向けグレインフェッド牛肉輸出の不振や米国の干ばつに端を発した飼料穀物高により厳しい状況。一方で最近では、東南アジアやEUなど新興市場向け輸出が増加している。
- ・ 2012年1～11月の中国向け輸出数量は、需要増を反映して前年度の約3.5倍の水準となる2万5500トンに急増。
- ・ 2012年にはインドが牛肉輸出量世界第1位に（水牛肉含む）なると予測される。インドの生産・輸出動向には注視が必要。しかしながらインドは、口蹄疫発生国であること、トレーサビリティシステムが未整備であることなどから、国際市場における豪州産牛肉との競合は限定的との見方。

<ALIC からの食肉需給について説明概要>

- ・ 日本の直近の牛肉の需給動向、今後の生産見通し等について説明。

お問い合わせ先 調査情報部 前田、星野 電話 03-3583-9806
---